

花巻ファーマー

エディブルフラワー栽培 花の楽しみ、喜びを届けたい



岡居 亜優美 さん
(石鳥谷町黒沼 43歳)

「食用の花」を意味するエディブルフラワー。料理を鮮やかに彩り、食事する人を楽しませる花を育てているのが、岡居亜優美さんです。

「母と祖母が生け花の先生、叔父が花屋を営んでいて、子供の頃から花が好きでした」と話す岡居さんは、神奈川県で花屋の経験を持ちます。結婚を機に、旦那さんのふるさとである花巻へ移住し、花屋の経験を生かした農業を形にしたいと思い平成29年に就農。どういふものを作ろうか考えたときにたどり着いたのがエディブルフラワーでした。「珍しい作物で、栽培を反対する人もいましたが、喜んでくれるお客さんに届けたいと思いました」と当時を振り返ります。



▲エディブルフラワーを使った料理。花の香り、食感を味わえる

自宅そばの畑で栽培している花は、パンジー、バラ、コーンフラワーなど多品種。「就農して自分で育てた花が芽を出したときは、花屋の仕事とは違う花への楽しみと喜びを感じます」と笑顔を見せます。

畑内の小屋には岡居さんが製作したドライフラワーやアクセサリーが飾られています。「将来はここでエディブルフラワーを使ったお菓子やハーブティーを提供したい」と、新たな挑戦を楽しそうに語ってくれました。

広げよう
活動の輪

市民活動団体紹介

大型紙芝居で大迫の伝説や昔話を伝える
図書ボランティアたんぽぽの会

と言われた時はうれしくて元気が出る。これからも楽しみなが、楽しませる読み聞かせを行いたい」と笑顔で話していました。

図書ボランティア「たんぽぽの会」は、平成17年に発足した大迫地域で読書環境づくりの推進を目指す団体です。同団体は、大迫の伝説や昔話を伝えようと読み聞かせを行うほか、広い会場でも多くの人に見てもらえるよう半畳ほどの大型紙芝居を作成。地域の小学校や介護施設、イベントなどで発表しています。さらに、大迫の小学生と高校生に昔話の読み聞かせを指導しています。最近では昔話や地域の伝説を聞く機会がなくなってきた。だからこそ、若い人たちにたくさん聞かせてあげたい」と話すメンバーの伊藤尚子さん。後世に継承する活動も積極的に行っています。

代表の高橋則子さんは、
『また読み聞かせに来てね』



① 図書ボランティア たんぽぽの会の皆さん ② 読書ボランティア等研修会で大型紙芝居の作成の仕方を説明する高橋さん ③ 大型紙芝居の読み聞かせを発表している大迫の小学生



【問い合わせ】
図書ボランティア
たんぽぽの会
代表 高橋 則子さん
(大迫図書館内 ☎48-2244)

市民生活コーナー

ローンの借りすぎに注意！

■どんな相談があるの？

○住宅ローンを利用するとき、「共働きだから夫婦2人でローンが組める」と言われ、その当時の家計収支で返済額を決めた。その後、妻が産休・育休に入り、収入が減り生活が苦しい

○新型コロナウイルス感染症の影響で収入が減少。ローンの負担が大きく困っているところ、SNSで個人間

■注意することは？

○住宅ローンを利用するときは、共働きで収入が高い場合でも、育休中や時短勤務中は収入がダウンすることを念頭に置く必要があります。住宅ローンは長期にわたって返済が続くものです。今後の家計収支の変化

■困ったときは

○新館市民生活総合相談センター(☎41-3550)へ

の融資をしてくれる人を見つけた。連絡したところ、先に保証金を支払うように言われ支払ったが融資を受けられなかった

を予想し無理のない計画を立てましょう

○SNSや掲示板サイトなどを通じて「個人間融資」で見知らぬ相手から借り入れするのはやめましょう。融資を受けるために先にお金を支払うことは危険です。また、個人情報悪用されたりするなどの危険性もあるため、注意しましょう

COLUMN:Health

健康コラム

集団免疫ってなに？

今、メディアでは新型コロナウイルス感染症の話題で持ち切りですが、集団感染を起こす感染症は数多くあります。今回は、感染症予防に欠かせない予防接種と免疫についてのお話です。

●免疫を高める「予防接種」

予防接種を受けると、病原体(ウイルスや細菌)に対する免疫をつけることができます。免疫は、病原体に対する抵抗力のようなもの。そして、免疫の強さは抗体価の高低で分かり、抗体価が十分にあれば感染しにくく、仮に感染したとしても重症化しない効果が期待できますね。

●「集団免疫」で感染対策をしよう！

免疫をつける方法は、感染するか予防接種を受けるかのいずれかになります。集団の中で一定の割合以上の人が免疫を持つと、仮に感染者が出たとしても周囲への感染が起これにくくなります。この状態を「集団免疫」といい、免疫を持たない人も感染から守られるというメリットがあります。

予防接種を受けたくても、病気やアレルギーなどで受けられない人にとっては、流行そのものを抑えてくれる「集団免疫」がとても大切と言えます。

予防接種の対象とされている感染症は、流行すると命に関わる場合があります。しっかり接種、がっちり対策、みんなで予防を目指したいですね。



【問い合わせ】健康づくり課(☎23-3121)

地域おこし協力隊

今年の新たな挑戦

-ブドウ栽培担当 瀬川 達矢-

新緑の5月は、だいぶ暖かい日が多くなってきたと感じた一方、梅雨の6月に入り、昼夜の寒暖の差がまだまだあると感じています。皆さん、体調管理にはくれぐれもご用心ください。

さて、自分で畑を持つようになり今年で2シーズン目となります。昨年はまだまだ経験不足ということもあり全ての作業において苦勞の連続でした。今期は昨年の経験を活かし効率よく作業をこなしていけるよう頑張りたいと思います。今年の新たな挑戦ということで、4月か



▲新たに借りたシャルドネのブドウ畑

ら大迫町内でブドウ畑を新たに借りることになりました。この辺りでは数少ないワイン専用種シャルドネの畑です。これでブドウ畑は2か所に増え、面積は合わせて約40㌥となりました。

シャルドネといえば世界で最も知られている白ワイン用品種です。土壌や気候の条件で味に違いが出るのがワインの面白いところ。どんなワインができるか楽しみです！

さて、今シーズンも頑張ろう！